

# 2024年度 事業計画

# 2024年度 事業計画概要

## 社会福祉法人 札幌この実会

2023年5月に新型コロナの感染症法の位置付けが5類へと引き下げられ、コロナ以前の日常が少しずつではありますが戻ってきております。その一方で、新型コロナの脅威が無くなったわけではなく、それ以外の感染症についても十分に留意しつつ、利用者の個々に合わせた支援と、これからの高齢化に向けた課題と具体策に取り組んでいきます。

2024年度は3年に1度の報酬改定が行われ、障害福祉サービスについては、報酬全体で1.12%引き上げられることになっています。処遇改善についても、2024年度2.5%、2025年度2%のベースアップが出来るように、職員の処遇改善にあてる報酬の加算率も引き上げるとしています。しかし、サービスによっては、基本の報酬単価がマイナスとなるケースもあります。特に生活介護は、サービス提供時間別に細かな設定がされ、その結果2024年度予算は2023年度補正予算からマイナス編成となり、厳しい運営状況が続くと予想されます。この実会としては、利用者の方が充実した時間を過ごせるような体制づくりを、事業所間で連携して進めていきます。その中で、生活介護のサービス提供時間を確保していき、報酬へ結びつけるよう取り組んでいきます。

将来展望と具体策の取り組みである「みらい会議」については、昨年度に各職員と面談を行いました。面談では、「取り組みの5つの柱」である(Ⅰ)利用者の幸せを目指した支援のあり方の再検討 (Ⅱ)利用者家族との関係性を深めるための試み (Ⅲ)職員の資質向上を図り、信頼される職員集団を目指す (Ⅳ)外部に開かれた運営を目指す (Ⅴ)健全な運営基盤の強化策を検討する、以上の中から職員に対して取り組みたいテーマの希望を取り、その後、各チームに分かれ具体策の検討を続けてきました。今年度については、その検討した具体策がしっかりと結果に結びつくことが期待されます。不十分な部分もありますが、「どうすれば、職員を巻き込みながら、具体策を進めていけるか」の課題を常に意識しながら、今年度も取り組みを継続していきます。

人材確保については、近年どの業種も人手不足が問題となっていますが、福祉の分野についても深刻な状況です。人材の確保・定着は最重要課題であり、対策としては、今年度以降、奨学金返還支援や資格取得支援制度の確立、働き方の見直しを行い、勤務条件の整備を進めていきます。また、去年に引き続き、各学校訪問や北海道福祉人材センターの福祉職場説明会等に参加をして、求職者や関係者と直接対面での接する機会を増やし、様々な媒体を使用し発信を行います。

## 1. 理事会・評議員会の開催

理事:6人 監事:2人 評議員:7人

開催月	機関	主な議案等
6月	理事会	2023年度事業報告及び決算の承認 定時評議員会の招集
	定時評議員会	2023年度事業報告 2023年度決算の承認
9月	理事会	
12月	理事会	2024年度補正予算の同意 評議員会の招集
	評議員会	2024年度補正予算の承認
3月	理事会	2025年度事業計画及び収支予算の同意 評議員会の招集
	評議員会	2025年度事業計画及び収支予算の承認

## 2. 監事監査について

各理事会前に監事が業務監査及び会計監査を行います。

## 3. 事業運営について

2024年度の運営事業は次のとおりです。

### この実サポートステーション

#### ■生活介護事業 この実サポートステーションすてっぷ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数見込)約10,400人

(体制)福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

#### ■短期入所事業 りらく

(定員)6人 (年間利用者延べ人数見込)約900人

(体制)食事提供体制

### 【事業所としての重点目標】

- ①職員間のチームワークの向上…支援のあり方についての共通認識を持った職員集団となる。
- ②提供する活動内容の質の充実…創作活動とレクリエーションの内容をより充実したものにしていくための具体的な改善策を実行します。
- ③個々の利用者の権利擁護…「呼び捨て、あだ名、叱責口調、命令口調」など職員による不適切な言動の排除に事業所全体で取り組みます。

### 【生活介護事業所すてっぷ 日中活動の概要】 定員:40名

**屋内での活動** 場所:サポートステーション施設内、地域交流ホーム1階ホール

- 創作活動…従来の個別活動と並行して、期間を区切ってグループで特定の創作を進めていく「グループ創作」を新たに実施していきます。
- レクリエーション活動…レク担当の職員を設けて活動の内容を管理してもらうことで、その質の向上を図っていきます。年間で月ごとに実施する種目を決めて、事前にその実施方法を検討します。
- 生産活動…一定の利用者たちが無理なく取り組める範囲に限って作業を継続していきます。

**屋外での活動** 場所:盤溪作業所、事業所敷地内、周辺の公園

#### 1. 盤溪

- 生産活動…支援センターの椎茸栽培を一部移譲してもらい、試験的に盤溪で栽培を行うことを計画しています。栽培場所として現地の既存のプレハブ小屋を利用し、水槽等の必要な設備を新たに用意します。
- こもれびの家（4月～11月半ば）…盤溪作業所入り口付近のプレハブ（こもれびの家）を拠点として、盤溪の敷地内でウォーキングなどの活動を行うグループを新たに創設します。

#### 2. 事業所周辺での活動

- 公園清掃事業（5月～11月上旬）…西野南公園の清掃の割り当てを受けており、原則週1回は5名程度の利用者がグループを組んで、職員1名による引率で清掃作業を行います。
- 公園などでの散策…盛夏期（7、8月）と冬期（12月～3月）を除いた期間、毎週1回は小グループで公園での散策活動を行います。
- 事業所敷地内の環境整備（12月～3月）…冬期間の運動不足を解消することを目的として小グループで敷地内の補助的な除雪をしていきます。

### 【余暇的な活動】

- 全体での活動…今年度は全員参加の余暇活動を複数回行っていきます。お弁当ドライブ（4月5月）、盤溪でのBBQ（6月7月）、サポート敷地内での盆踊り（8月）、大型入浴施設への外出（11月12月）を予定しています

●個別の活動(誕生日外出)…個別の課外活動については、今年度は誕生日外出という形に変えて利用者全員を対象として各々の誕生日中に実施していきます。

### 【 主な行事予定 】

●この実オータムフェスティバル2024…昨年と同様の規模、内容にて法人のまつりを開催する予定です。職員を含んだ来場者全体で200人程度を想定しています。9月28日(土)開催予定。

●その他の行事…忘年会(11月)、クリスマス会(12月)、新年会(1月)、ごくろうさん会(3月)

### 【保護者との連携】

定期的に保護者会(4月、8月、12月に実施予定)と個別懇談を実施して事業所の方針や個別支援計画などについて説明し、保護者からの聴き取りをする機会を確保していきます。

### 【短期入所事業所りらく】 定員6名

単独型短期入所棟として、主に家族の休息等を目的として宿泊の受け入れをしていきます。保護者からの緊急性のニーズ(家族の入院等)が生じた際には可能な限り対応できるようにしていきます。

## この実支援センター

### ■生活介護事業 この実支援センター おりーぶ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数見込)約9,100人

(体制)福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

利用者は日中の活動を含め、生涯を通じた生活の場であることを常に念頭に置くことが重要であると考えます。利用者が健康で豊かな生活を送れるように、また、安心して、安定して、安全に生活できるように、利用者主体のサービスの提供に努力します。そのためには、一人ひとりの障がいを個性と捉え、一人ひとりの障がいの特性を理解すると共に一人ひとりの障がいに応じた、人権に配慮したサービスを提供します。特に、利用者の安全保障と人権擁護の観点から、適正で健全な支援が提供され、利用者の自立と社会参加のための支援を妨げることのないような体制を構築していきます。

### ■就労継続支援B型事業 この実支援センター うえるなつつ

(定員)15人 (年間利用者延べ人数見込)約3,400人

(体制等)福祉専門職員配置等 施設外就労 施設外支援

うえるなつつは多種多様な作業を提供できるという大きなメリットがあります。それは、施設外での作業においては地域住民の方や企業で働いている方との関わりを持つ機会、事業所内の作業においても、同じ建物を利用している社会人としての関わりを持つ機会です。それらの機会『チャンス』を自分らしさを発見する『チャンス』、これからの自分を築き上げていく『チャンス』として利用者みなさんに提供していきます。まずは、利用者一人ひとりのニーズをしっかりと把握し実現のために本人の意思を尊重し相談し合いながら職員全員または多職種間とも協力し合いサービスを提供していきます。一方で、社会の構成員として周囲の人たちと気持ちよく接することができるよう、社会生活におけるルールやマナーを学ぶ機会を設けます。自分らしい社会生活を営むことができるよう、たくさんの『チャンス』を提供し実現に向けて取り組んでまいります。

## コミュニティライフこの実

この実会の理念である

『誰もが地域社会の中で自立した人間(ひと)として暮らすこと』

『一人一人が大切にされ、その長い生涯が支えられること』

を具現化するためにどのような支援が必要か、またどのような体制を組み立てるのかを常に検討しながら、安心安全で楽しく人らしい生活をつくります。

昨年度には、課題であった高齢化について、介護度の高まりや支援の質の変化が顕著になってきた為に、本人のニーズに合わせた暮らしの場を提供するよう、各ホームでの役割を明確にして、ライフステージに合った支援を提供できるよう全体の見直しを図りましたが、大きな疾病の予後の体制を考えるうえで数年単位でのハード面や職員の意識・介護技術の向上など利用者と共に歩んでいける体制づくりを目指します。

### ■共同生活援助事業 この実らいふネット

(定員)50人 (共同生活住居)9ヵ所

(年間利用者延べ人数見込)約17,200人

(体制)介護サービス包括型 福祉専門職員配置等 夜間支援等体制

重度障害者支援職員配置 医療連携体制

今年度は、就労している方の一人暮らしへ向けての支援を行います。一方で重度の疾病を患ったり、失明の恐れのある疾病を患うなど、支援の他に介護の度合いが高くなるケースが増えており、それに対応できるような仕組み作りを行っていきます。

帰省や外出の制限がなくなったため、ホームごとでの外食など、利用者の楽しみの活動の充実を図ります。

#### ■共同生活援助事業 この実みなぼっけ

(定員)19人 (共同生活住居)2ヵ所

(年間利用者延べ人数見込)約6,700人

(体制)日中サービス支援型 福祉専門職員配置等 看護職員配置体制

重度障害者支援職員配置

#### ■短期入所事業 この実みなぼっけ

(定員)1人 (年間利用者延べ人数見込)100人

(体制)常勤看護職員等配置 食事提供体制

女性利用者の中でも認知症やマヒなどの症状が出ており、介護の度合いが高くなってきている為、1階のメンバーはそのまま男性で、2階を女性の利用者が利用する体制に変更します。そのうえで、健康状態や加齢に伴う変化に対し速やかに適切な対応をとれるような体制をつくります。また訪問リハビリや訪問看護なども活用し身体機能の維持を図ります。

日中を過ごす利用者にも、リハビリや体力維持といった個別のプログラムを用意し行って行きます。

## 相談室みすくうる

#### ■特定相談支援事業 相談室みすくうる

障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)

(契約者数)80人 (更新見込)37人 (モニタリング見込)187人

#### ■一般相談支援事業 相談室みすくうる

地域生活への移行に向けた支援(地域移行支援・地域定着支援)

2017年1月、社会福祉法人札幌この実会の地域貢献自主事業として福祉総合相談「みすく・うる」を開設しました。その後、2019年4月に指定特定相談支援事業所(特定相談支援事業・一般相談支援事業)を開設し、6年目を迎えます。現在の契約件数は、今年星置養護学校ほしみ高等学園を卒業し4月よりサポートステーションを

新規利用される方を含め 80 名 (札幌この実会利用者 35 名 藻岩この実会 41 名 他 4 名)となっています。サービス等利用計画の作成や定期的(3ヶ月・6ヶ月)なモニタリングを行っています。また、藻岩この実会のほっと相談センターで行っている不登校のお子さんを対象とした多目的サロンに参加しております。引き続き、藻岩この実会のほっと相談センターとは出来る限り、協力体制をとっていきたいと考えています。

今年度も事業所や関係機関への訪問を行い、常日頃から情報交換をするなど連携をとり、円滑な関係作りを図れるよう努めていきたいと考えています。

#### 4. 地域における公益的な取り組みについて

2023年度よりみらい会議(IV)「外部に開かれた運営を目指す」チームの課題の一つとして、検討を進めてきました。2024年度は次の取り組みだけではなく、まちづくりセンターや町内会の方と協議し、地域のニーズに応えられるよう努めていきます。

##### ■外作業班による地域貢献活動

利用者の日中活動の一環として、地域住民の日常生活の困りごとのお手伝いをしています。

##### ■福祉除雪

地域の支え合いとして行われている福祉除雪事業の地域協力員として除雪を行います。

##### ■福祉総合相談

「相談室みすくうえる」において、障がいのある方、高齢の方、そのご家族の困りごとなどを一緒に考え、地域における公益的な活動を目指します。

##### ■清掃活動

公園清掃、地域、バス停及び琴似発寒川のゴミ拾い活動を行います。

## 2024年度 当初予算について

2024年度当初予算の概要は次のとおりです。( )…対2023年度第一次補正予算

《事業所合計》 ※法人本部を除く

事業活動収入 約 478 百万円強 (約 17 百万円弱減 ▼) …別紙参照

人件費関係の支出 約 340 百万円弱 (約 4 百万円弱減 ▼)

○人件費率 約 71%

○人件費積立資産 取崩 1 百万円 (支援センター) 積立 1 百万円 (CL)

経常的なその他の支出 約 137 百万円弱 (約 2 百万円弱減 ▼)

《法人合計》

特別な支出に対する積立資産での対応 5 百万円

○ソフトウェア(SimWork 財務会計) 1 百万円 (本部)

○車両(10 人乗り) 4 百万円 (この実支援センター)

(法人計) 支払資金残高 約 193 百万円弱  
積立資産残高 約 217 百万円弱

※積立資産の収支 (退職給付引当資産を除く)						(単位: 千円)
		本部	この実サポート ステーション	この実 支援センター	コミュニティ ライフこの実	合計
取崩(A)	積立資産取崩収入	1,000	0	5,000	0	6,000
積立(B)	積立資産支出	8,333	0	0	1,000	9,333
(B)-(A)		7,333	0	▲ 5,000	1,000	3,333

※その他 札幌市補償工事(収支差額0円)

この実支援センター水道施設移設工事 (予算額) 43 百万円

2024年度の事業活動収入について

事業活動収入計	この実サポートステーション	この実支援センター	コミュニティライフこの実	相談室みすくうえる	合計
2023年度	117,551,000	116,725,000	257,639,000	3,047,000	494,962,000
2024年度	114,454,000	108,824,000	251,878,000	3,146,000	478,302,000
差異	▲ 3,097,000	▲ 7,901,000	▲ 5,761,000	99,000	▲ 16,660,000
主な要因	<p><b>■すてっぷ(生活介護)</b></p> <p>自立支援給付費収入…プラス約15万円                      (-) 報酬改定・基本報酬                      (+) 報酬改定・重度障害者支援加算</p> <p>その他の事業収入…マイナス約43万円                      (-) 物価高騰対策支援金                      (+) 処遇改善臨時特例交付金</p> <p>経常経費寄附金収入…マイナス約25万円                      (-) 親和会寄付金(旅行引率費用)</p> <p><b>■りらく(短期入所)</b></p> <p>自立支援給付費収入…マイナス約218万円                      (-) 利用者延人数減</p> <p>特定費用収入…マイナス約19万円                      (-) 利用者延人数減</p> <p>その他の事業収入…マイナス約21万円                      (-) 物価高騰対策支援金                      (+) 処遇改善臨時特例交付金</p>	<p><b>■おりーぶ(生活介護)</b></p> <p>自立支援給付費収入…マイナス約725万円                      (-) 報酬改定・基本報酬                      (+) 報酬改定・重度障害者支援加算                      (+) 常勤看護職員等配置加算</p> <p>その他の事業収入…マイナス約45万円                      (-) 物価高騰対策支援金                      (+) 処遇改善臨時特例交付金</p> <p>経常経費寄附金収入…マイナス約14万円                      (-) 親和会寄付金(旅行引率費用)</p> <p><b>■うえるなつつ(就労継続B型)</b></p> <p>自立支援給付費収入…プラス約4万円                      (+) 報酬改定・基本報酬                      (-) 就労移行支援体制加算 ⇒非該当に</p> <p>その他の事業収入…マイナス約5万円                      (-) 物価高騰対策支援金                      (+) 処遇改善臨時特例交付金</p> <p>経常経費寄附金収入…マイナス約4万円                      (-) 親和会寄付金(旅行引率費用)</p>	<p><b>■らいふネット(共同生活援助)</b></p> <p>自立支援給付費収入、補足給付費収入、特定費用収入                      合計…マイナス約262万円                      (-) 報酬改定・基本報酬+人員配置体制加算                      (-) 医療連携体制加算</p> <p>その他の事業収入…マイナス約113万円                      (-) 物価高騰対策支援金                      (+) 処遇改善臨時特例交付金</p> <p>経常経費寄附金収入…マイナス約16万円                      (-) 親和会寄付金(旅行引率費用)</p> <p>その他の収入…マイナス約41万円</p> <p><b>■みなぼっけ(共同生活援助+短期入所)</b></p> <p>自立支援給付費収入、補足給付費収入、特定費用収入                      合計…マイナス約88万円                      (-) 報酬改定・基本報酬+人員配置体制加算</p> <p>その他の事業収入…マイナス約43万円                      (-) 物価高騰対策支援金                      (+) 処遇改善臨時特例交付金</p> <p>経常経費寄附金収入…マイナス約5万円                      (-) 親和会寄付金(旅行引率費用)</p> <p>その他の収入…マイナス約9万円</p>	<p><b>■相談室みすくうえる(計画相談支援)</b></p> <p>自立支援給付費収入…プラス約10万円                      (+) 報酬改定・基本報酬</p>	<p><b>■法人合計</b></p> <p>自立支援給付費収入…<b>マイナス約1211万円</b>                      (-) 報酬改定</p> <p>補足給付費収入…<b>プラス約5万円</b></p> <p>特定費用収入…<b>マイナス約77万円</b>                      (-) GH家賃額見直し他</p> <p>その他の事業収入…<b>マイナス約270万円</b>                      (-) 物価高騰対策支援金(▲334万円)                      (+) 処遇改善臨時特例交付金(+65万円)</p> <p>経常経費寄附金収入…<b>マイナス約64万円</b>                      (-) 親和会寄付金(旅行引率費用)</p> <p>その他の収入…<b>マイナス約50万円</b></p>

注) 2023年度…12月・第一次補正予算 2024年度…当初予算